

## 5 「子どもの思いや考え」を引き出すには？



1時間の授業の中で、できるだけ多くの子どもが発表できるようにしています。（5年経験者の声）

子どもが進んで発表している授業では、友達との相互交流によって、自分の見方や考え方を広げたり深めたりすることができます。

では、子どもが主体的に「思いや考え」を表現するには、教師のどのような手立てが必要なのでしょう。

一人一人の子どもが自分の思いや考えを素直に表現できる場づくりと、子どもが自分の考えを形成する過程を大切にしたい授業づくりが大切です。



### 思いや考えを素直に表現できる場づくり

子どもが、伸び伸びと自己表現するには、自分が受け入れられている安心感を持っていることが大切です。次のような教師の姿勢を心掛けましょう。

- 子ども一人一人のよさを認める共感的な態度を示す。
- 教師自身が人との関わりを楽しみ、子どもと行動をともにする。
- 意志決定の場を設定し、自分の責任で行動できるように支援する。
- ※ 教師の子どもに対する姿そのもの（話し方、聞き方、接し方）が、モデルとなります。子ども一人一人を大切にしているかどうか、表情、言葉遣い、しぐさなど、自分の姿を自覚的に振り返りましょう。

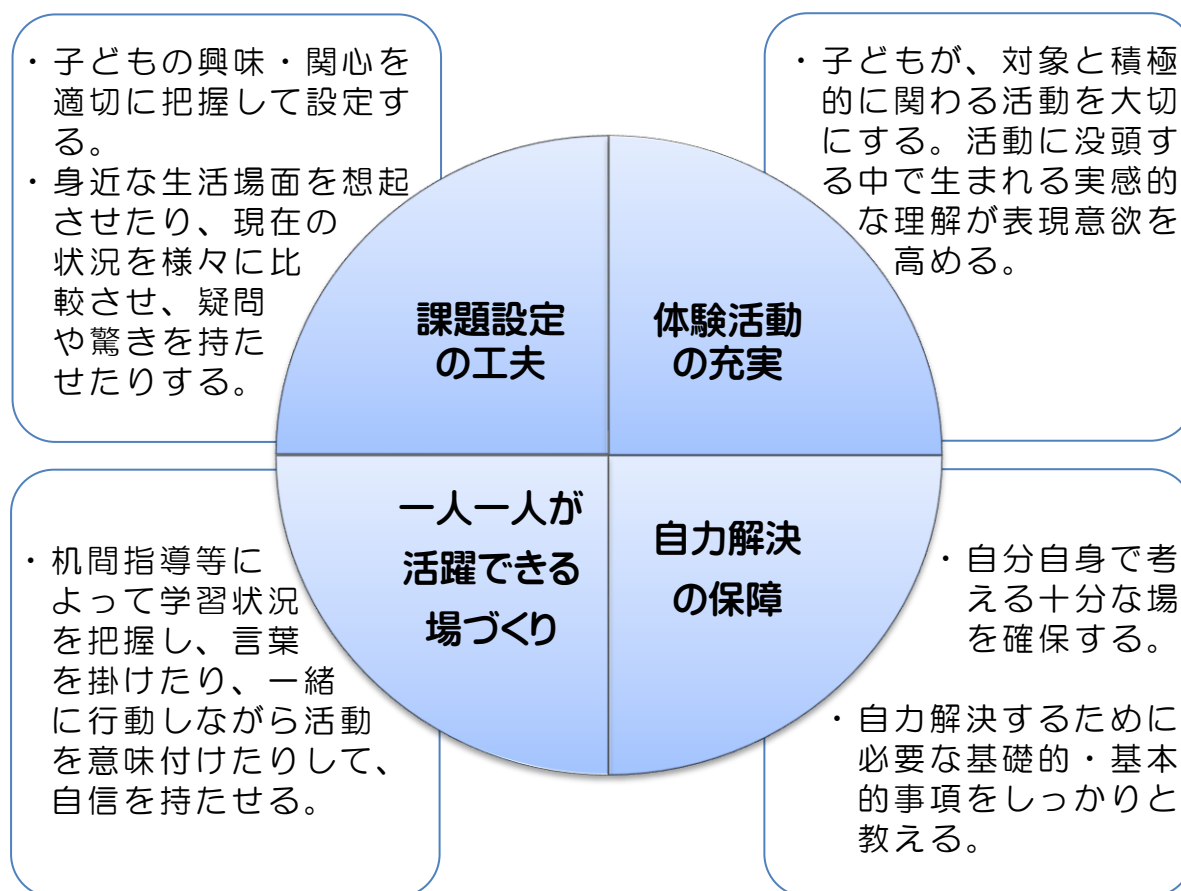
子ども同士の関係においても、相手の言葉に耳を傾けて理解しようとする気持ちを持っていることが必要です。聞く力を育てる指導を大切にしましょう。

- 相手に視線を向けたり、話にうなずいたりしながら聞く。
- 相手の話を最後まで聞く。
- 自分の思いや考えと比べ、共通点と相違点を見付けながら聞く。
- 分からないことを相手に尋ねて、理解を深めようと思いつきながら聞く。
- 相手の意図やよいところをつかみながら聞く。

互いを認め合う雰囲気を作られることで、子どもは自分の思いや考えを素直に表現することができます。そうした集団の中では、互いに高め合いながら学習することができます。

## 自分の考えを形成する過程を大切にしたい授業づくり

子ども自身が表現したくなるような、思いや考えを持たせましょう。



こんな子どもにはどう対応しますか…



### <課題を理解できていない子ども>

黒板やノートに書いているめあてを確認させる。既習事項や日常体験と関連させて説明する。

### <課題は理解できているが、課題解決の方法が分からない子ども>

課題解決に必要な資料や情報を提示し、情報活用の方法について例を示す。

### <思いや考えをうまく表現できない子ども>

子どもの得意な表現方法があることを意識し、多様な表現活動（文字言語、音声言語、身体表現、絵や造形表現など）の場を作る。

教師が、子どもの思いや考え、感情に対して深い関心を持って対応することが大切です。共感的な子ども理解の力を高めましょう。

様々な手立てを考えて準備しておくからこそ、子どもの学習状況に応じて臨機応変に対応することができるのです。教師同士で、有効な手立てについて情報交換し、指導技術を磨きましょう。